

令和3年度 第1回山梨県スポーツ推進審議会
会議録

- 1 日時 令和3年5月18日(火) 午前10時00分～午前11時00分
- 2 場所 山梨県防災新館1階やまなしプラザ オープンスクエア
- 3 出席者
 - (1) 委員 11名
赤池隆廣、飯田忠子、小俣宏記、川上琴美、小林誠次、小林美香、
佐野夢加、土屋ひとみ、中村和彦、奈良妙子、野呂瀬秀
 - (2) スポーツ振興局事務局 5名
オリンピック・パラリンピック推進課長、スポーツ振興課長、スポーツ振興課総括
課長補佐、スポーツ振興課課長補佐2名
- 4 傍聴者等の数
傍聴者 なし
報道機関 5社
- 5 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 課長あいさつ
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 議事
 - (5) 閉会
- 6 議事
[審議事項]
 - ① 山梨県スポーツ推進計画の改定について (資料1)
[報告事項]
 - ① 令和3年度スポーツ振興施策の概要について (資料2・資料2-1・資料2-2)
 - ② その他
- 7 議事の概要
(議長)
審議事項の「山梨県スポーツ推進計画の改定」について、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)

「山梨県スポーツ推進計画の改定」について、資料1に基づき説明。

(議長)

事務局の説明が終わったが、何か意見、質問があればどうぞ。

(委員)

改定のスケジュール案について、10月以降に反映していくということであり、先ほど、オリンピック・パラリンピックの部分について厚くしていくという話があった。

10月にはオリンピック・パラリンピックは終わっている段階で、現在私も、オリンピック前で様々な活動をしている中で盛り上げているところである。

実際に東京オリンピックが終わってから、次のオリンピックに向けてということになるかと思うが、今後どのような形で改定していくのか伺う。

(事務局)

現在のスポーツ推進計画の中では、オリンピック・パラリンピックについては、機運の醸成を中心に記載されている。

東京オリンピック・パラリンピックが終わった後については、機運の醸成というよりも、そのレガシーをどのように出していくか、大会開催の効果をどのように反映させるのかということを中心に記載していこうと考えている。

今回の改定については、令和5年度までの現行計画期間途中での一部改定となるので、大きな改定までは考えていないが、計画期間終了に伴う改定の際には、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした内容を大きく盛り込んでいきたいと考えている。

(議長)

他に何か意見、質問があればどうぞ。

他に意見がないようなので、次の項目の報告事項「令和3年度スポーツ振興施策の概要」について、事務局から説明をどうぞ。

(事務局)

「令和3年度スポーツ振興施策の概要」について、資料2、資料2-1、資料2-2に基づき説明。

(議長)

事務局の説明が終わったが、何か意見、質問があればどうぞ。

(委員)

資料2「令和3年度スポーツ振興施策の概要」の5番目「国民体育大会に関する取り組み」に、全国障害者スポーツ大会の日程が入っていない。

今年10月23日から25日に、全国障害者スポーツ大会が三重県で開催されるので、このことも追加してほしい。

(事務局)

資料2「令和3年度スポーツ振興施策の概要」の4番目に「障害者スポーツ活動の充実」で、全国障害者スポーツ大会選手派遣について触れているが、委員ご指摘のとおり、5番目にも記載すべきだった。

大変申し訳ない。

(委員)

1点伺う。

やまなしスポーツエンジン（仮称）という組織は、何人で構成しているのか。

(事務局)

やまなしスポーツエンジンの設置準備委員会を開催するわけであるが、準備委員会の委員は15名程度である。

(委員)

自転車ロードレースの競技会におけるボランティアは整っているのか。

富士北麓地域で、以前ボランティアの募集という広報を見たので伺う。

(事務局)

自転車ロードレース競技については、2つのボランティアがある。

1つは都市ボランティアである。

これは、県実行委員会で募集し、今研修をしている中で、大会当日に主要な駅等で案内をしていただくボランティアである。

もう1つは、大会組織委員会が運営する、コースサポーターのボランティアがある。

この方々については、県内のコースの道志村と山中湖村がそれぞれ募集して、それぞれの村内のコースに立っていただき、コースの安全を確保するという役割のボランティアである。

コースサポーターについては、各村で必要な人数を募集していて、ほぼ人数は集まっていると聞いている。

(議長)

他に何か意見、質問があればどうぞ。

意見、質問がなければ、次の「その他」の項目に移る。

事務局から何かあればどうぞ。

(事務局)

特になし。

(委員)

まず、スポーツコミッションについて、すでに多くの都道府県、市町村で行っている。

これをどのように組み立てるのかということが非常に重要であり、私の知っている多くの県では、民間の大手のスポーツ会社であるとか、あるいは総合研究所等呼び寄せて、これらの方を中心に組み立てるというやり方をとっている。

それと、スポーツ庁で、2、3年前までは補助金を出していたはずなので、こうした補助金を活用することも大事で、アピールにも繋がるので、検討が必要ではないか。

次に、オリンピック・パラリンピックは、ムーブメントやレガシーという言葉が使われ、レガシーの方が分かりやすいと思うが、オリンピック・パラリンピックが終わった後に、どういったものを残していくかということが重要である。

ロンドンオリンピックがレガシーという面で大成功した例で、特に青少年のスポーツに関して、ものすごい功績を残しているのが、山梨県として、どこをレガシーの拠点にするのかということになると思う。

私は、ずっと前からこの審議会を聞いていて、一人一人の方がスポーツができるような県というのが一番大事だと思っている。

一人一人の方のスポーツ推進といっても、具体的には皆さんそれぞれに条件がつく。

例えば、幼児期や青少年といった子ども、それからビジネスパーソン、つまり働いている方、それからリタイアして比較的時間がある中高年の方、それから障害のある方、そして女性。

スポーツ庁のスポーツ健康科学ではこの5つに分けて、それぞれの施策を立てているが、一番大事なことは、「〇〇はできますよ」というよりも、むしろ阻害条件を削っていくこと。

何が阻害されているのか、例えば女性の場合だと、結婚されて、妊娠されて、子育てをしている期間はなかなか運動ができない。

しかし、その阻害要因を何か変えてあげる、それでもできるようなことをしてあげる。

例えば、障害のある方だと、施設の条件とかそういったものを少しでも良くしてあげる。

何かをやればできるという考え方よりも、私はむしろ、阻害条件を削ることによって、多くの方がスポーツに取り組んでいけるという考えが、今から大事なのではないかと考えている。

スポーツというと、多くの県民の方が競技スポーツをイメージされるが、身近な、いわゆる生涯スポーツというか、身近なスポーツというところから始められるような条件を整える、そのためには、阻害要因を削っていくという考え方をすると良いのではないかと。

(議長)

あらためて参考になる意見である。

「一人一スポーツの推進」ということを県では推奨しているので、もっともっとスポー

ツの振興を図っていく。

他に何か意見、質問があればどうぞ。

(委員)

(山梨県スポーツ推進計画の) 基本の理念が、誰もが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる、「いつでも」「どこでも」とここに書かれているということは、通常の生活の中に取り入れられることを、何かできれば良いと思っている。

実際問題、「こういうことをやっていますよ、来てください」と言って足を運ぼうとする人よりも、もともとある集団での生活の中に、私たちが足を運んで行ってあげた方が、確実に皆さんに提供できる確率が高いと思う。

例えば、私たちが、学校現場に「こういう企画で行きます」とか、高齢者施設に「今日は誰かがこういったことをやりますよ」など、もともとある中に飛び込んでいった方が、皆さんがスポーツに触れる機会が多いかなと思う。

手軽さで言うと、休日にイオンモールに行く人と人がたくさんいる。

家族で一緒に買い物に来ている方がとても多く、そういった人が集まる場所でイベントを行う。

例えば、突然でも参加ができるような、「今日は屋上で駆けっこをやっていますよ」というような、手軽さのあるイベントができれば良いなと日々思っていた。

先ほど、女性が子育てをしながら自分のことに取り組む時間が本当に少なく、子どもがいるからできないと考えてしまいがちであり、自分が動こうとすると子どもたちはどうしようかと絶対に考える。

それならば子どもも一緒にやれば良いのではという考え方にしていくことが、より一層、いろいろな面で充実するのかなと考える。

手軽さをもう少し考えた上で、いろいろな企画をしていくことが良いと思う。

難しいことをしようというよりも、日々続けていくことが、スポーツというか体を動かすことが大事なので、単発的に今日やったからOKではなく、普段から、継続的にできるような手軽さのあるものを、ぜひ取り入れていけたら良いと思う。

(委員)

今、委員から「いつでも」「どこでも」という話が出たが、東京オリンピック・パラリンピックでも、支えるスポーツというの必要なのではないかなと思う。

多くの支える人達によって、こういう大会がスムーズに運営できる、それから進行上も大変大事になってくるのではないかなと思う。

先ほどから話に出ているスポーツエンジン、そのスポーツエンジンという言葉は非常にユニークで面白い言葉だなと思うが、エンジンをかけるためには、ある程度の支えるという部分、財政的な面、人材的な面、そういったものも必要になってくるかなと思う。

今の段階においては、燃料となるガソリンの部分のみで、支えるというところには一切触れていないので、そういったところももう少し審議しながら慎重に取り組んでいくべきではないかなと思う。

(事務局)

県民がスポーツを「する」「見る」そして「支える」と、この3つは非常に大事だと考えている。

オリンピック・パラリンピックについても、アスリートが競技をする、それを国民、県民が見る、その裏にはこの大会を支えるボランティアの皆さんがいらっしゃる。

先ほども、都市ボランティア、コースサポーターの話をさせていただいたが、この支える方達も大切だと思っている。

また、スポーツエンジンの方でも「支える」が大事だとの意見をいただいたが、スポーツという産業になるので、その産業には、エンジンを動かすためのガソリンとなる支援が必要になると考えている。

これについても、今回設立する準備委員会の中で、しっかり議論していきたいと考えている。

(議長)

他に何か意見、質問があればどうぞ。

～意見等なし～

(議長)

また何かあれば、県に話をする機会もあるので、本日の資料を持ち帰って皆様の中で何かあれば、忌憚のない意見をいただければと思う。

本日は長時間にわたり、お疲れ様でした。

以上で本日の議事を終了する。

(以上)